

令和元年度
自己点検評価書
[自己点検・評価委員会]

令和2（2020）年9月
大阪人間科学大学

目 次

基準Ⅰ. アドミッション・ポリシーにおける評価・点検（入試委員会）	1
基準Ⅱ-1. カリキュラム・ポリシーにおける評価・点検（教務委員会）	2
基準Ⅱ-2. カリキュラム・ポリシーにおける評価・点検（FD・SD 委員会）	3
基準Ⅱ-3. カリキュラム・ポリシーにおける評価・点検（事務局）	4
基準Ⅲ-1. ディプロマ・ポリシーにおける評価・点検（入試委員会）	5
基準Ⅲ-2. ディプロマ・ポリシーにおける評価・点検（教務委員会）	6
基準Ⅲ-3. ディプロマ・ポリシーにおける評価・点検（キャリア開発委員会）	7
エビデンス一覧	8

大阪人間科学大学 令和元年度 自己点検評価報告書

基準 I	アドミッション・ポリシーにおける評価・点検（入試委員会）
------	------------------------------

◆評価基準

- ① アドミッション・ポリシーが明文化され、公表されている
- ② アドミッション・ポリシーに適している入学者選抜が実施されている
- ③ 学力の3要素を踏まえた多面的・総合的に評価する入学者選抜が実施されている

◆自己点検評価（該当数字を○で囲む）

- 1：基準を全て満たしている
- ② 基準を概ね満たしている
- 3：基準を満たしていない

◆自己点検評価結果の理由

- ①アドミッション・ポリシー（以下 AP）については、「GUIDANCEBOOK（大学案内）」「ホームページ」「学生募集要項」等において「求める学生像」「高等学校で身に付けておくことが望ましい素養と履修すべき科目」「各学科・専攻の求める学生像」を掲載し周知している。
- ②入学者選抜においても AP に合致する学生を受入れるための選抜方法を設定している。面接試験を課す入試では AP に関連した内容の質問を行い、AP を理解できているかを確認している。
- ③多面的・総合的評価については、AO 入試において「AO ポートフォリオ」の提出や個人面接での自己アピール、プレゼンテーションにより「思考力、判断力、表現力」「意欲」を重点的に評価するようにしている。

◆自己点検評価結果のエビデンス

1. GUIDANCE BOOK（大学案内）
2. 学生募集要項
3. ホームページ

◆自己点検評価結果における課題と対応

令和元年度に実施した入学者選抜においては、AP を明文化・公表し、AP に適した入学者選抜を実施したが、学力の3要素を踏まえた多面的・総合的な評価については、特に「思考力・判断力・表現力等」や「主体性等」の評価について、一部の入学者選抜（一般入試及びセンター試験利用入試）では学力試験のみの評価となっており、今後の課題として認識している。

基準Ⅱ-1	カリキュラム・ポリシーにおける評価・点検（教務委員会）
-------	-----------------------------

◆評価基準

- ① カリキュラム・ポリシーが明文化され、公表されている
- ② カリキュラム・ポリシーに適している教育が実施されている
- ③ IR 情報を利用した教学マネジメントが実施されている

◆自己点検評価（該当数字を○で囲む）

- ①: 基準を全て満たしている
- 2: 基準を概ね満たしている
- 3: 基準を満たしていない

◆自己点検評価結果の理由

<p>①ディプロマ・ポリシーを具体化するために、教育課程編成方針を「カリキュラム・ポリシー」として定め、学生便覧やホームページに明示している。</p> <p>②教育課程は大きく、全学共通の「基礎科目」と、それぞれの学科の「学科専門科目」から構成される。基本的には、「基礎科目」で対人援助の専門職業人となるべき基礎を固めた上で、「学科専門科目」で専門職となるための知識・技術を専門的に学ぶという形になる。また、個々の授業とカリキュラム全体、そしてディプロマ・ポリシーとの関係を明らかにするために、カリキュラムマップを作成している。カリキュラムマップでは、それぞれの科目がディプロマ・ポリシーのどの要素と関連しているかを明確にしている。併せてカリキュラムマップ上のそれぞれの科目にはナンバリングを付して、4年間の学びのルートを明らかにするとともに、各学科・専攻において「履修モデル」を作成し、「ユニバーサル・パスポート」上で学生に公開している。</p> <p>授業においては、全学的にシラバスにおいて、ディプロマ・ポリシーを踏まえた上での到達目標を示すとともに、教育課程における科目の位置づけが理解できるように概要の記載に留意している。また、学生が自主的に学ぶことができるように、各回の学習項目において、予習・復習のポイントと時間を示している。併せて、授業時間内に「学修ポートフォリオ（振り返りシート）」を実施している。これは、授業終了時に学生がその授業のまとめや意見等を記入し、その後担当教員がチェック・添削等した上で、翌週学生に返却するものである。この「学修ポートフォリオ（振り返りシート）」により、講義科目においても学生との双方向のやりとりが可能になる。さらには、教員は学生の理解度等を踏まえた形成的評価をもとに、授業指導計画、教授内容を検討し、次週以降の授業に反映することができる。これにより、教員自身の教授内容の目標、内容、方法の適否について確認をしながら、個々の学生の日々の学修意欲や到達点を把握することができる。</p> <p>③IR 情報を活用した取り組みとしては、令和2年度からの3学部体制に向けた「履修方法に関する細則」におけるゼミの履修条件の改定や「転学部・転学科要項」の策定等を行い、それぞれ各年次終了時の学生の単位修得状況やGPAを分析することで、教育課程の実質化を図った。</p>
--

◆自己点検評価結果のエビデンス

1. 人間科学部と各学科・専攻の3ポリシー
2. カリキュラムマップ
3. 履修モデル
4. シラバス
5. 学修ポートフォリオ（振り返りシート）
6. 「学修ポートフォリオ」等の利用状況調査

◆自己点検評価結果における課題と対応

<p>ディプロマ・ポリシーを達成するために、各学科・専攻、各科目担当教員において体系的な教育、教育の質の向上に向けて改善に努めている。また、教務委員会として IR 情報を活用し、単位修得状況、GPA、成績評価方法等に関する情報を把握した上での、各種規程の整備や教育課程の実質化を図っている。今後はこれらの IR 情報を活用した取り組みを定期的かつ継続的に実施をしていくことで全学的な教学マネジメントを行っていく必要がある。</p>

基準Ⅱ-2	カリキュラム・ポリシーにおける評価・点検 (FD・SD 委員会)
-------	----------------------------------

◆評価基準

- ① カリキュラム・ポリシーが明文化され、公表されている
- ② カリキュラム・ポリシーに適している教員組織となっている
- ③ カリキュラム・ポリシーに適した教育を行うためのFD活動が実施されている

◆自己点検評価 (該当数字を○で囲む)

- ①: 基準を全て満たしている
- ②: 基準を概ね満たしている
- ③: 基準を満たしていない

◆自己点検評価結果の理由

①カリキュラム・ポリシーは、学生便覧及び本学 HP 上に明記され公表されている。

②基礎的事項としては、大学設置基準を満たした教員組織となっている。また、本学で取得可能な資格・免許に関する養成課程はすべて学校・養成所指定規則等を満たしており、対人援助の専門職業人を養成することが可能な教員組織となっている。

③ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに基づく授業改善をはじめ本学の教育力の向上を目指したFD活動として、以下の活動を行った。

ピア・レビュー活動の一環として、特任教授を除く全専任教員が授業の相互参観を実施した。令和元年度は「アクティブラーニング」と「学生の理解や動機づけ」をメインテーマにして実施した。相互参観のペアリングは前年度に引き続き学科・専攻の枠組みを設けず、ランダムなペアを作成し実施した。実施に際しては、手引きにしたがい、ペアごとに事前面談を行い、授業内容や方法に関する特徴など参観における観点を確認した。そして、相互に授業を参観し、その後に事後面談を行った。事後面談においては、相互に参観した授業内容に基づき議論や情報交換を行った。そして、教員は事前・事後面談の内容を含めて、参観した授業の内容を報告書にまとめた。こうした一連の活動に基づき、授業改善に取り組んだ。なお、全報告書は全教職員に対して公開しており、授業改善に関する情報の共有化をはかっている。

全教員を対象としたFD研修会としては「動画教材、関西地区FD連絡協議会作成の「シリーズ 大学の授業を極める(1)講義法」に基づく授業の振り返り」を3月に実施した。

また、定期的に取り組んでいるFD活動としては、新任教員を対象とした「FDオリエンテーション研修会」を毎年4月に定期開催している。そして、学生による「授業評価アンケート」及び「授業評価アンケートに対するリフレクション」を学期末毎に実施しており、これらに基づき教授方法等の改善に努めた。なお、令和元年度は「授業評価アンケート」の評価項目を改定し、後期からは改定版で実施した。改定の趣旨は、学生の授業への取り組み方や学修実態を把握することであり、こうしたデータから授業改善に取り組むことを目指した。さらには、令和元年度から、これまで行ってきたシラバス点検活動をFD活動の一環として位置づけ直し、FD・SD委員会の教員を主体とした点検委員を組織して、実施していくこととした。この活動の趣旨は、従来通り第3者によるシラバス点検を行うことによってより良いシラバス作りを行っていくことではあるが、下記2点の効果を目標とした活動である。1点目は、他者の作成したシラバスを点検することによって、点検者自身がより良いシラバス作りの観点と方法を学習し、学科・専攻内の教員に対して助言可能な力量を形成すること。2点目は、学科内の開講科目の内容、方法、到達目標を理解することによって、カリキュラムに対する理解を深め、カリキュラムレベルにおける教育改善に繋げていくことである。

◆自己点検評価結果のエビデンス

1. 授業評価アンケート及び結果
2. 授業評価アンケートリフレクションの集計結果
3. 令和元年度「FD研修会」実施記録
4. ピア・レビュー報告書記入の手引き・授業相互参観組み合わせ表

◆自己点検評価結果における課題と対応

今後の課題は、学生の学修実態をエビデンスとしたFD・SD活動を実施する体制を構築していくことである。そうすることによって、個々の授業を改善していくことのみならず、カリキュラムレベルにおける教育改善を可能とする体制を目指す。この時、教育評価は教育活動における基礎的事項であり尚且つ最重要事項の1つとなるため、これに関するFD活動を必要に応じて実施できるように計画していく。これらの事項を中心としたFD・SD委員会における新生5ヵ年計画を策定したので、今後は本計画に基づき取り組んでいく。

基準Ⅱ-3	カリキュラム・ポリシーにおける評価・点検（事務局）
-------	---------------------------

◆評価基準

- ① カリキュラム・ポリシーが明文化され、公表されている
- ② カリキュラム・ポリシーに適している教育設備が整備されている
- ③ カリキュラム・ポリシーに適した教育を行うための教育設備整備計画が実施されている

◆自己点検評価（該当数字を○で囲む）

- ①: 基準を全て満たしている
- 2: 基準を概ね満たしている
- 3: 基準を満たしていない

◆自己点検評価結果の理由

①カリキュラム・ポリシー（以下 CP）については、「人間科学の学際的特徴を活かした基礎科目の設置」「資格取得に軸をおいた学科専門科目の設置」「1～4 年次を通しての少人数教育の重視」「演習・実習を中心とした実践的な教育の重視」の4点を明文化し、公表している。

②③教育設備の整備やメンテナンスについては法人本部が一括して管理しているが、事務局においては CP に適した教育設備や環境が整備されるよう適切に計画を立案し、随時見直しを行っている。令和元年度については、1号館3教室に中間モニターを設置し授業環境の向上や、共用部における無線 LAN 構築工事を実施し、ICT 環境の充実に努めるとともに、令和2年度開設の保健医療学部 作業療法学科設置の為、2号館改修工事を実施した。その他、「学生生活委員会」や学生課を中心に、学友会等から学生の要望をできるだけ取り入れて対応に努めている。「教学実態調査」においても、学内施設や設備に関する意見や要望が寄せられており、その内容については法人本部と共有・連携を図り、充実や改善に役立てている。

◆自己点検評価結果のエビデンス

1. 令和元年度 教学実態調査（自由記述・施設関連抜粋）

◆自己点検評価結果における課題と対応

令和元年度においては特に学生からの要望が多かった無線 LAN の共用部の構築工事を実施したが、引き続き、より効果的な授業の実施が可能となるよう全学的な無線 LAN の環境構築等、計画的に CP に適した教育設備や環境の整備に努める予定としている。

基準Ⅲ-1	ディプロマ・ポリシーにおける評価・点検（入試委員会）
-------	----------------------------

◆評価基準

- ① ディプロマ・ポリシーが明文化され、公表されている
- ② ディプロマ・ポリシーに適している入学者選抜が実施されている
- ③ 入学者の追跡調査等により入学者選抜方法の妥当性が実施されている

◆自己点検評価（該当数字を○で囲む）

- ①: 基準を全て満たしている
- ②: 基準を概ね満たしている
- ③: 基準を満たしていない

◆自己点検評価結果の理由

①ディプロマ・ポリシー（以下 DP）については、「GUIDANCEBOOK（大学案内）」「ホームページ」において明文化し幅広く公表している。

②DP に沿った人材を育成するためにカリキュラム・ポリシーが定められ、それに基づきアドミッション・ポリシー（以下 AP）が策定されていることから、入学者選抜においても面接試験を課す入試では、将来の目標実現に結び付ける具体的なビジョンを確認するなど、DP に適した学生を受入れるための選抜方法を設定している。

③AP においては高等学校で身に付けておくことが望ましい素養と履修すべき科目も明文化し、そこには DP で定めているコミュニケーション能力やその基礎となる語学力（国語力）を有していることとしている。これらの入学者選抜方法の妥当性を確認するため、入学者の追跡調査を行っている。

◆自己点検評価結果のエビデンス

1. 入試種別毎の GPA 分布
2. 入試種別毎の単位取得状況
3. 入試種別毎の中退状況

◆自己点検評価結果における課題と対応

DP については明文化し、公表についても幅広く周知している。入学後の追跡調査によると、入試種別毎の GPA 分布では公募推薦入試、一般入試、センター試験利用入試、指定校推薦については大きな差異は見られないが、AO 入試については低い傾向が見られ、取得単位状況、中退状況においても同様の傾向が見られることから、今後も入学者選抜方法の妥当性の確認を継続して実施していく。

基準Ⅲ-2	ディプロマ・ポリシーにおける評価・点検（教務委員会）
-------	----------------------------

◆評価基準

- ① ディプロマ・ポリシーが明文化され、公表されている
- ② ディプロマ・ポリシーに適している教育が実施されている
- ③ IR 情報を利用した教学マネジメントが実施されている

◆自己点検評価（該当数字を○で囲む）

- ①: 基準を全て満たしている
- ②: 基準を概ね満たしている
- ③: 基準を満たしていない

◆自己点検評価結果の理由

①本学は、教育理念である「自立と共生の心を培う人間教育」のもと「人間性豊かな幅広い知識を持った専門職業人」を育成することを教育目標としている。この教育目標は「ディプロマ・ポリシー」に反映され、学生便覧やホームページに明示している。

②単位の認定、卒業・修了要件については学則で定められており、適正に運用されている。成績評価、進級条件、キャップ制、GPA の活用も「大阪人間科学大学 履修方法等に関する細則」「大阪人間科学大学 試験及び成績評価に関する規程」「大阪人間科学大学 試験内規」に定められており、適正に運用されている。また、新たに学生の経時的な変化を把握しながら4年後にディプロマ・ポリシーへ到達できる「OHS ポートフォリオシステム」(ディプロマサプリメント)を導入した。

③令和元年度の IR 情報を活用した取り組みとしては、令和2年度からの3学部体制に向けての「履修方法に関する細則」や「試験内規」の改定があげられる。「履修方法に関する細則」では学生の単位修得状況や GPA を分析し、卒業要件であるゼミⅠ・Ⅱの履修条件を各学科毎に定めた。また、令和元年度からは修学指導の基準値としての年間修得単位数と GPA についても同規程に明記するとともに、退学勧告についても定めた。その他、進級条件の検討にあたっては、学生の成績分布状況を確認し、「試験内規」に新たに定期試験再試験制度を導入した。

◆自己点検評価結果のエビデンス

1. 人間科学部と各学科・専攻の3ポリシー
2. 大阪人間科学大学 履修方法等に関する細則
3. 大阪人間科学大学 試験及び成績評価に関する規程
4. 大阪人間科学大学 試験内規
5. 大阪人間科学大学 OHS ポートフォリオ・ディプロマサプリメント

◆自己点検評価結果における課題と対応

現在、IR 情報については、各種制度の導入に関して、成績評価、進級条件、キャップ制、GPA の活用といった、データを分析し利用しているが、今後は定期的に検証し活用できるように体制を整える必要がある。また、学生の学修成果、学修状況の把握を行い、対人援助の専門職業人としての能力獲得に向けた教育改善と可視化に活用する。今後はこれらの IR 情報を多面的に精査・分析をし、教学マネジメントに活用していく必要がある。

大阪人間科学大学 令和元年度 自己点検評価報告書

基準Ⅲ-3	ディプロマ・ポリシーにおける評価・点検 (キャリア開発委員会)
-------	---------------------------------

◆評価基準

- ① ディプロマ・ポリシーが明文化され、公表されている
- ② ディプロマ・ポリシーに適している社会との接続が実施されている

◆自己点検評価 (該当数字を○で囲む)

- ①: 基準を全て満たしている
- ②: 基準を概ね満たしている
- ③: 基準を満たしていない

◆自己点検評価結果の理由

①について大学 HP、大学案内等に公開し、周知を図っている。また学生には新入生対象のガイダンスやオリエンテーション等の行事を通じて説明している。合わせて保護者に対しても毎年実施している保護者懇談会にて教務担当部長より説明している。

②については、各学科・専攻の学びや専門性を活かした進路選択をする学生の割合が高く、社会に必要とされる人材を輩出していると言える。

◆自己点検評価結果のエビデンス

1. 就職率 98%
2. 専門職化率 社会福祉学科：87%、介護福祉専攻：91%、視能訓練専攻：93% 子ども保育学科：82%、言語聴覚専攻：93%、理学療法学科：100%
3. 国家試験合格率 ・令和2年3月卒業者の各国家試験の合格率は以下の通りである。
社会福祉士:35.3%(29.4%、56.0%)、精神保健福祉士:83.3%(62.1%、74.0%)
介護福祉士:100%(69.9%、非公表)、視能訓練士:92.9%(96.1%、97.7%)
言語聴覚士:68.8%(65.4%、84.3%) 理学療法士:94.1%(86.4%、93.2%)
※カッコ内は 前：全国平均合格率、後：4大新卒平均合格率

◆自己点検評価結果における課題と対応

エビデンス 3 に記載の通り、各国家試験で視能訓練士以外の資格では全国平均を上回る合格率となったが 4 年制大学の新卒者合格率と比較すると社会福祉士、視能訓練士、言語聴覚士で平均以下となっている。専門職業人の養成校として 4 年制大学の新卒者合格率を毎年上回る実績を残すこと、そしてその為のメソッドを確立させることが必要であると考えている。

また、4 大新卒平均合格率を達成している課程において今後は入学者数に対する 4 年次国家資格取得者数を 4 大新卒平均合格率に近づけることが課題となる。

エビデンス一覧

基準	タイトル
基準Ⅰ	2020 GUIDANCEBOOK (大学案内)
	2020年度 学生募集要項
	ホームページ (AP 掲載ページ)
基準Ⅱ-1	人間科学部と各学科・専攻の3ポリシー
	カリキュラムマップ
	履修モデル
	シラバス (シラバス記入要領)
	学修ポートフォリオ (振り返りシート)
	「学修ポートフォリオ」等の利用状況調査
基準Ⅱ-2	授業評価アンケート及び結果
	授業評価アンケートリフレクションの集計結果
	令和元年度「FD 研修会」実施記録
	ピア・レビュー報告書記入の手引き・授業相互参観組み合わせ表
基準Ⅱ-3	令和元年度 教学実態調査 (自由記述・施設関連抜粋)
基準Ⅲ-1	入試種別毎の GPA 分布
	入試種別毎の単位取得状況
	入試種別毎の中退状況
基準Ⅲ-2	人間科学部と各学科・専攻の3ポリシー (再掲)
	大阪人間科学大学 履修方法等に関する細則
	大阪人間科学大学 試験及び成績評価に関する規程
	大阪人間科学大学 試験内規
	大阪人間科学大学 OHS ポートフォリオ・ディプロマサプリメント
基準Ⅲ-3	令和元年度 卒業者就職率
	令和元年度 就職者専門職化率
	令和元年度 国家試験合格率

令和元年度
外部評価報告書

令和2（2020）年9月
大阪人間科学大学

外部評価委員

氏 名	職 名
氏 ^{はし} 名 ^な 尾谷 ^{おだに} 知也 ^{ともや}	摂津市教育委員会 教育長

外部評価議事要旨

日 時：令和2年9月25日（金）10:00~11:00

場 所：摂津市役所 教育長室

出席者：

（評価員）箸尾谷委員

（本 学）橋本大学事務局長

（陪席者）藤田大学事務局長

1.令和元年度自己点検評価について

橋本大学事務局長から資料に基づき自己点検評価についての説明が行われ、意見交換の後、箸尾谷委員から「大学において十分に自己点検評価が行われており妥当である」との外部評価を受けた。

意見交換の主な内容

（評価員）「基準Ⅱ-2 カリキュラム・ポリシーにおける評価・点検（FD・SD委員会）」について、FD活動における「ピア・レビュー（授業参観）」とはどのようなものか？他大学でも行われているものか？

（本 学）教員同士が相互評価を行うことによって授業の価値を高め、本学の教育力の向上を目指すものである。同様の取組みは他大学でも進んでいると思われるが、「専任教員全員による授業の相互参観」までの取組みは先進的であると考えられる。

（評価員）「基準Ⅲ-1 ディプロマ・ポリシーにおける評価・点検（入試委員会）」について、AO入試での入学者については入学後のGPAが低い傾向が見られ、取得単位状況、中退状況についても同様の傾向が見られるとのことだが、何が課題であると考えられるのか？

（本 学）AO入試については、選抜時に「学力の3要素」（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性」）のうち、「思考力・判断力・表現力」「主体性」を重点的に評価している。ただし、他の入試種別と比べその傾向が突出しているわけではない。今後も入学者選抜方法の妥当性の確認を継続して実施していく。

（評価員）同じく「基準Ⅲ-1 ディプロマ・ポリシーにおける評価・点検（入試委員会）」について、指定校推薦での入学者の傾向はどのようなになっているのか？また、指定校推薦の入学者選抜方法はどのようなものか？

（本 学）指定校推薦の入学後のGPAは公募推薦入試、一般入試、センター試験利用入試と大きな差異は見られない。入学者選抜方法は、高校に対し成績基準や推薦枠を定めた上で、本学のAPを十分に理解している者の推薦を依頼している。なお、試験当日は個

人面接となる。今後もミスマッチをなくすため、オープンキャンパスや相談会等において3ポリシー（AP・CP・DP）の周知を図っていく。

（評価者）「基準Ⅲ-2 ディプロマ・ポリシーにおける評価・点検（教務委員会）」について、「OHSポートフォリオシステム」（ディプロマサプリメント）を導入したとのことだが、具体的にはどのようなものか。

（本 学）ディプロマ・ポリシーへの到達に向け、学生の学修成果を可視化するものである。学生の自己評価に対し、1・2年次はF A（ファカルティ アドバイザー）教員、3・4年次はゼミ担当教員が学生と面談し評価を行う。

（評価者）同じく「基準Ⅲ-2 ディプロマ・ポリシーにおける評価・点検（教務委員会）」について、「退学勧告」を導入したとのことだが、令和元年度に対象となった学生はいたのか。

（本 学）「退学勧告」はGPAの活用のため「履修方法等に関する細則」に新たに定めたものであるが、令和元年度についてはその対象となる学生はいなかった。

（評価者）資格に直結しているのが大阪人間科学大学の特長であり強みであると思われる。学生の成長に対する様々な取組みを大いに評価する。

以上